平成25年12月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年7月31日

上場会社名　株式会社　不二家　　上場取引所　東
コード番号　2211　URL　http://www.fujiya-peko.co.jp/
代表者　(役職名) 代表取締役社長　(氏名) 櫻井　康文
問合せ先責任者 (役職名) 取締役総務人事本部長　(氏名) 河村　宣行　TEL 03-5978-8100

四半期報告書提出予定日　平成25年8月8日
配当支払開始予定日　―
四半期決算補足説明資料作成の有無　：　無
四半期決算説明会開催の有無　：　無

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年12月期第2四半期の連結業績(平成25年1月1日～平成25年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)　(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年12月期第2四半期	44,847	3.9	242	△34.2	458	△14.8	135	△52.7
24年12月期第2四半期	43,151	2.5	368	100.5	538	58.8	286	―

(注)包括利益　25年12月期第2四半期　693百万円　(39.8%)　24年12月期第2四半期　496百万円　(―%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年12月期第2四半期	0.53	―
24年12月期第2四半期	1.11	―

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
25年12月期第2四半期	52,270	28,265	52.9
24年12月期	55,502	28,158	49.8

(参考) 自己資本　25年12月期第2四半期　27,657百万円　24年12月期　27,637百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年12月期	―	0.00	―	2.00	2.00
25年12月期	―	0.00			
25年12月期(予想)			―	2.00	2.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無　：　無

3. 平成25年12月期の連結業績予想(平成25年 1月 1日～平成25年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	93,000	3.4	1,800	12.0	2,700	10.8	2,400	10.9	9.31

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無　：　無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更	:	有
② ①以外の会計方針の変更	:	無
③ 会計上の見積りの変更	:	有
④ 修正再表示	:	無

(注)「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」第10条の5に該当するものであります。詳細は、添付資料P6「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項(3)会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	25年12月期2Q	257,846,590 株	24年12月期	257,846,590 株
② 期末自己株式数	25年12月期2Q	81,596 株	24年12月期	80,759 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	25年12月期2Q	257,765,335 株	24年12月期2Q	257,766,241 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P5「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

１．当四半期決算に関する定性的情報 ……2
（１）連結経営成績に関する定性的情報 ……2
（２）連結財政状態に関する定性的情報 ……5
（３）連結業績予想に関する定性的情報 ……5
２．サマリー情報(注記事項)に関する事項 ……6
（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 ……6
（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 ……6
（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 ……6
３．四半期連結財務諸表 ……7
（１）四半期連結貸借対照表 ……7
（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 ……9
（３）四半期連結キャッシュ・フロー計算書 ……11
（４）継続企業の前提に関する注記 ……12
（５）セグメント情報等 ……12
（６）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 ……13

１．当四半期決算に関する定性的情報

（１）連結経営成績に関する定性的情報

当第２四半期連結累計期間（平成25年１月１日～６月30日）のわが国の経済は、円安・株高基調を背景に景気回復への期待感が高まったものの、消費全般は依然として低調な状況が続きました。

当社グループが属する食品業界におきましては、消費者の根強い低価格志向に加え、円安による輸入原料や光熱費の高騰、さらには包装資材の値上げにより収益が圧迫され、厳しい経営環境が続きました。

このような環境の中で、当社グループは、当期を「再生から成長への第２段階」と位置付け、市場に対応した製品施策、営業施策に取り組むとともに、主力生産ラインの稼働率向上や省人省力化にも取り組み、売上の拡大と収益の確保を目指してまいりました。

販売面では、競合他社商品にPB（プライベートブランド）商品も加わり、菓子市場における競争がますます激しくなる中、お客様の低価格志向に対応した営業施策を実施するとともに、品質を重視した新製品の開発にも積極的に取り組みました。さらに、洋菓子の拡販を図るべく、店舗開発の推進や新たなチャネルでの取引拡大にも取り組み、売上の増加を目指しました。

その結果、当第２四半期連結累計期間の売上高は、448億47百万円(対前年同期比103.9%)となりました。

損益面では、おかげさまでレストランが黒字化するなど、洋菓子事業における収益を改善させることができました。しかしながら、単体の菓子事業におきまして、低価格競争に対応したことによる販売費の大幅な増加が収益を圧迫した結果、営業利益は２億42百万円（対前年同期比65.8%）、経常利益は４億58百万円（対前年同期比85.2%）、四半期純利益は１億35百万円（対前年同期比47.3%）となりました。

当社グループのセグメントの概況は次のとおりであります。

		当第２四半期連結累計期間 平成25年１月 1日から 平成25年６月30日まで		前第２四半期連結累計期間 平成24年１月 1日から 平成24年６月30日まで		対前年同期比	増減
		売上高	構成比	売上高	構成比		
		百万円	%	百万円	%	%	百万円
洋菓子事業	洋菓子	11,216	25.0	10,161	23.6	110.4	1,054
	レストラン	3,512	7.8	3,297	7.6	106.5	215
	計	14,728	32.8	13,459	31.2	109.4	1,269
製菓事業	菓　子	26,822	59.9	26,310	61.0	101.9	511
	飲　料	2,563	5.7	2,679	6.2	95.7	△116
	計	29,385	65.6	28,990	67.2	101.4	395
その他		732	1.6	701	1.6	104.5	31
合　　計		44,847	100.0	43,151	100.0	103.9	1,696

（注）記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

＜洋菓子事業＞

当社単体の洋菓子におきましては、売上拡大を目指して、店頭演出の充実や「ふんわりティラミス」、「完熟ピーチパイ」などのお買い求めになりやすい1,000円シリーズの新製品を投下し、品揃えの強化を図りました。さらに、毎月22日の「ペコちゃんデー」や「スマイルセール（10％ＯＦＦセール）」などの販売促進策を次々に展開した結果、来店客数は着実に増加しました。また、雛まつり、母の日などのセールにも積極的に取り組み、売上の拡大に努めました。加えて、４月にテレビ番組で洋菓子商品が紹介されたことも、売上拡大の一助となりました。

店舗開発につきましては、ショッピングセンターへの出店に加え、駐車場が広く、品揃えを充実させた大型店舗の出店を積極的に進めた結果、当第２四半期連結会計期間末店舗数は、前年同期に比べ18店増加し、704店舗となり、売上の拡大に貢献しました。

コンビニエンスストアとの取り組みにつきましては、専用商品である「ふんわりペコちゃん」や「マカロン」などの取引が順調に拡大し、売上の増加に寄与しました。

高級フランス菓子を製造、販売しているダロワイヨは、新聞折り込みチラシの投下エリアを拡大するなど積極的な販売施策が奏功し、バレンタインや母の日セールなどの売上は好調に推移しました。また、抹茶やゆずといった日本の食材を使用した「マカロン」などの新製品を発売し、その拡販にも努めました。さらに、カタログギフトやインターネット通販の販売も好調に推移しましたが、店舗数の減少が影響し、売上は前年同期をわずかに下回りました。

また、前連結会計年度末より、東北エリアで不二家洋菓子チェーン店などを展開している株式会社不二家東北を新たに連結対象に加えたことも売上拡大の一因となり、ケーキ等の洋菓子類の売上高は、112億16百万円（対前年同期比110.4％）となりました。

家族団欒の場としてご利用いただいているレストランにおきましては、バースデーサービスやケーキバイキングのさらなる充実に取り組み、競合他社との差別化と固定客の拡大を図りました。さらに、「洋食バリューセット」の品質の高さとお得感を、新聞折り込みチラシなどを活用して積極的に訴求し、来店客数の増加を図りました。また、「神戸アンパンマン＆ペコズキッチン」や「宮崎牛」の専門レストラン「銀座不二家みやちく」がオープンしたことも売上拡大に貢献しました。その結果、レストランの売上高は、35億12百万円（対前年同期比106.5％）となり、前年同期を上回りました。

以上の結果、当第２四半期連結累計期間における洋菓子事業全体の売上高は、147億28百万円（対前年同期比109.4％）となりました。

＜製菓事業＞

当社単体の菓子におきましては、競合他社及びPB商品との競争がますます激化する中、より一層のお買い得感を訴求するために、「カントリーマアム」、「ホームパイ」及び「ピーナッツチョコレート」などのお買い求めになりやすい徳用大袋商品の増量キャンペーンを実施し、売上の確保に努めました。また、販売促進策を強化したバレンタインセールや、その他催事の売上も概ね堅調に推移しました。さらに、夏でもおいしく食べられる新食感のチョコレート菓子を新たに開発するなど、品質を重視した新製品の開発にも積極的に取り組みました。しかしながら、一部の主力商品や新製品の販売が低調に推移したため、売上は前年同期をわずかに下回りました。

在外子会社である不二家（杭州）食品有限公司につきましては、昨年来の日中問題に加え、政権交代後の節約励行政策により「ホームパイ」など進物品の販売が減少したものの、主力商品である「ポップキャンディ」の販売が好調に推移し、売上は前年同期を上回りました。

この結果、菓子の売上高は、268億22百万円（対前年同期比101.9%）となりました。

飲料におきましては、販売提携先（ポッカサッポロフード＆ビバレッジ株式会社）の販路拡大により、缶飲料の自動販売機が増加した結果、「ネクターピーチ350ｇ缶」や「レモンスカッシュ350ml缶」の販売数量は前年同期を上回りましたが、売上高は前年同期を下回る結果となりました。これは、一部取引先とのOEM商品に関する契約形態を変更したことにともない、製品売上高から加工料収入に変更になったことによるものです。

この結果、飲料売上高は、25億63百万円（対前年同期比95.7%）となりました。

以上の結果、当第２四半期連結累計期間における製菓事業全体の売上高は、293億85百万円（対前年同期比101.4%）となりました。

＜その他＞

通販・キャラクター事業部のライセンス事業への取り組みや、株式会社不二家システムセンターの受注請負、データ入力サービスなどの事務受託業務が拡大したことにより、その他事業の売上高は７億32百万円（対前年同期比104.5%）と前年同期を上回りました。

（２）連結財政状態に関する定性的情報

当第２四半期連結会計期間末における資産、負債、純資産の状況は以下のとおりであります。

流動資産は231億51百万円で、主に売掛債権やたな卸資産の減により前連結会計年度末に比べ34億70百万円減少いたしました。固定資産は291億19百万円で、主に有形固定資産の増により、前連結会計年度末に比べ２億38百万円の増加となりました。

この結果、総資産は522億70百万円で前連結会計年度末に比べ32億31百万円減少いたしました。

また、流動負債は154億86百万円で、主に仕入債務や短期借入金の減により前連結会計年度末に比べ40億99百万円減少いたしました。固定負債は85億18百万円で、主に長期借入金の新規約定により前連結会計年度末に比べ７億60百万円増加いたしました。

この結果、負債は合計240億５百万円で、前連結会計年度末に比べ33億38百万円減少いたしました。

純資産は282億65百万円で、主に為替換算調整勘定の増や有価証券評価差額金の改善により前連結会計年度末に比べ１億６百万円増加いたしました。

次に、当第２四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況は以下のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、35億18百万円となりました。これは主に売上債権の減少やたな卸資産の減少によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、13億87百万円となりました。これは主に有形固定資産の取得によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、２億44百万円となりました。これは主に配当金の支払によるものであります。

以上の結果、当第２四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、105億６百万円となりました。

（３）連結業績予想に関する定性的情報

平成25年12月期の業績予想につきましては、平成25年２月12日に発表した予想の変更はありません。

２．サマリー情報(注記事項)に関する事項

（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第１四半期連結会計期間より、平成25年１月１日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。

この変更による当第２四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響は軽微であります。

３．四半期連結財務諸表
（１）四半期連結貸借対照表

（単位：百万円）

	前連結会計年度 （平成24年12月31日）	当第２四半期連結会計期間 （平成25年６月30日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	8,638	10,585
受取手形及び売掛金	12,144	7,593
商品及び製品	2,982	2,404
仕掛品	299	282
原材料及び貯蔵品	2,050	1,797
繰延税金資産	178	167
その他	598	603
貸倒引当金	△270	△283
流動資産合計	26,621	23,151
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	6,709	6,857
機械装置及び運搬具（純額）	6,744	6,859
土地	2,935	2,935
リース資産（純額）	1,441	1,390
その他（純額）	398	519
有形固定資産合計	18,229	18,561
無形固定資産		
のれん	302	270
その他	276	264
無形固定資産合計	578	535
投資その他の資産		
投資有価証券	6,493	6,611
繰延税金資産	278	261
敷金及び保証金	2,224	2,221
前払年金費用	700	503
その他	594	627
貸倒引当金	△218	△203
投資その他の資産合計	10,073	10,022
固定資産合計	28,880	29,119
資産合計	55,502	52,270

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年12月31日)	当第２四半期連結会計期間 (平成25年６月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,446	4,591
短期借入金	4,707	3,979
1年内償還予定の社債	354	354
リース債務	425	432
未払金	4,687	3,321
未払法人税等	270	167
賞与引当金	268	299
店舗閉鎖損失引当金	12	12
その他	2,412	2,328
流動負債合計	19,585	15,486
固定負債		
社債	979	802
長期借入金	2,409	3,864
リース債務	1,141	1,076
退職給付引当金	1,395	1,323
長期未払金	1,214	842
その他	618	609
固定負債合計	7,758	8,518
負債合計	27,343	24,005
純資産の部		
株主資本		
資本金	18,280	18,280
資本剰余金	4,065	4,065
利益剰余金	5,364	4,984
自己株式	△14	△14
株主資本合計	27,695	27,314
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△128	43
繰延ヘッジ損益	6	10
為替換算調整勘定	64	289
その他の包括利益累計額合計	△57	343
少数株主持分	521	607
純資産合計	28,158	28,265
負債純資産合計	55,502	52,270

（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第２四半期連結累計期間

（単位：百万円）

	前第２四半期連結累計期間 （自 平成24年１月１日 至 平成24年６月30日）	当第２四半期連結累計期間 （自 平成25年１月１日 至 平成25年６月30日）
売上高	43,151	44,847
売上原価	23,091	23,515
売上総利益	20,059	21,332
販売費及び一般管理費	19,691	21,090
営業利益	368	242
営業外収益		
受取利息	8	6
受取配当金	20	52
持分法による投資利益	149	159
その他	84	102
営業外収益合計	263	321
営業外費用		
支払利息	58	57
その他	34	48
営業外費用合計	93	105
経常利益	538	458
特別利益		
固定資産売却益	0	0
投資有価証券売却益	0	0
保険差益	78	－
特別利益合計	79	0
特別損失		
固定資産廃棄損	112	42
投資有価証券評価損	0	5
特別損失合計	112	48
税金等調整前四半期純利益	504	410
法人税、住民税及び事業税	142	178
法人税等調整額	△0	27
法人税等合計	142	206
少数株主損益調整前四半期純利益	362	204
少数株主利益	76	68
四半期純利益	286	135

四半期連結包括利益計算書
第２四半期連結累計期間

（単位：百万円）

	前第２四半期連結累計期間 （自 平成24年１月１日 至 平成24年６月30日）	当第２四半期連結累計期間 （自 平成25年１月１日 至 平成25年６月30日）
少数株主損益調整前四半期純利益	362	204
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	92	164
為替換算調整勘定	37	314
持分法適用会社に対する持分相当額	4	10
その他の包括利益合計	133	489
四半期包括利益	496	693
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	409	535
少数株主に係る四半期包括利益	86	157

（３）四半期連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

	前第２四半期連結累計期間 （自 平成24年１月１日 至 平成24年６月30日）	当第２四半期連結累計期間 （自 平成25年１月１日 至 平成25年６月30日）
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	504	410
減価償却費	1,489	1,523
持分法による投資損益（△は益）	△149	△159
売上債権の増減額（△は増加）	4,731	4,622
たな卸資産の増減額（△は増加）	1,077	913
仕入債務の増減額（△は減少）	△1,757	△1,913
未払金の増減額（△は減少）	△1,400	△1,456
その他	△512	△350
小計	3,982	3,590
利息及び配当金の受取額	204	275
利息の支払額	△60	△57
法人税等の支払額	△237	△291
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,888	3,518
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△1	△0
定期預金の払戻による収入	63	7
投資有価証券の取得による支出	△32	△2
固定資産の取得による支出	△1,321	△1,357
固定資産の売却による収入	4	5
その他	7	△39
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,280	△1,387
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（△は減少）	260	△820
長期借入れによる収入	－	2,000
長期借入金の返済による支出	△310	△453
社債の償還による支出	△177	△177
割賦債務の返済による支出	△27	△24
リース債務の返済による支出	△203	△232
配当金の支払額	－	△507
少数株主への配当金の支払額	－	△29
その他	－	△0
財務活動によるキャッシュ・フロー	△458	△244
現金及び現金同等物に係る換算差額	8	68
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	2,158	1,953
現金及び現金同等物の期首残高	7,187	8,552
現金及び現金同等物の四半期末残高	9,345	10,506

（４）継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

（５）セグメント情報等

【セグメント情報】

Ⅰ 前第２四半期連結累計期間(自 平成24年１月１日 至 平成24年６月30日)

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント			その他(注)１	合計	調整額(注)２	四半期連結損益計算書計上額(注)３
	洋菓子事業	製菓事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	13,459	28,990	42,449	701	43,151	―	43,151
セグメント間の内部売上高又は振替高	―	302	302	321	624	△624	―
計	13,459	29,293	42,752	1,023	43,775	△624	43,151
セグメント損益(△は損失)	△206	1,641	1,434	102	1,537	△1,169	368

（注）１ 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産事業及び事務受託業務等を含んでおります。

２ セグメント損益(△は損失)の調整額△1,169百万円には、固定資産減価償却費の調整額９百万円、その他の調整額２百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△1,181百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費に係る費用であります。

３ セグメント損益(△は損失)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

２．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ 当第２四半期連結累計期間(自 平成25年１月１日 至 平成25年６月30日)

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント			その他(注)１	合計	調整額(注)２	四半期連結損益計算書計上額(注)３
	洋菓子事業	製菓事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	14,728	29,385	44,114	732	44,847	―	44,847
セグメント間の内部売上高又は振替高	―	381	381	337	719	△719	―
計	14,728	29,767	44,496	1,070	45,566	△719	44,847
セグメント損益(△は損失)	△33	1,546	1,512	72	1,585	△1,343	242

（注）１ 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、キャラクターグッズ等の通信販売、ライセンス事業、不動産事業及び事務受託業務等を含んでおります。

２ セグメント損益(△は損失)の調整額△1,343百万円には、固定資産減価償却費の調整額７百万円、のれんの償却費の調整額△31百万円、その他の調整額６百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△1,325百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費に係る費用であります。

３ セグメント損益(△は損失)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

２.報告セグメントの変更等に関する事項

会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更に記載のとおり、第１四半期連結会計期間より、平成25年１月１日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更したため、報告セグメントの減価償却の方法を変更しております。当該変更によるセグメント損益（△は損失）に与える影響は軽微であります。

３．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

（６）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。